

女性技術者シリーズ

㈱復建技術コンサルタント 盛岡支店 磯野 敦子

“「女性技術者のため息」という題名で何か書いて”というメールが送られてきたのは、偶然にも私の誕生日でした。私が第一回目ということで、いったいどういう内容でまとめたらよいのかまったく見当もつかず、なんて素敵な(!?)プレゼントを贈ってくれたものだとし途方にくれました。何といっても、文章を書く事がとても苦手だからです。こういう仕事をしていて、文章を書くのが苦手だとは言っていないのはわかっているのですが……。

とりあえず、自己紹介をしたいと思えます。私は、平成4年4月に㈱復建技術コンサルタントに入社しました。最初に配属されたのは、調査部の調査2課というところで、主に岩盤関係を専門に行っているところです。私は、工学部資源開発工学科卒ですが、研究室は地下探査のほうを選択したため、地質は講義でふれただけで、特に専門的に学んだわけではなく、入社してから再び勉強し直す羽目になりました。その後、3年間その課にいましたが、4年目に調査

4課に移動し、地すべりを学ぶ(?)こととなりました。そして、5年目、昨年4月に盛岡支店の設立と同時に、盛岡へ転勤となり今にいたります。あっという間に5年間に過ぎ、今年6年目に突入です。でも、まだまだ一人前ではありません。(ということを書くと怒られそうです。)

私が、5年前に技術者として採用されたときは、仕事先で会う人々に女性であるというだけで珍しがられ、最初はそれが嫌でたまりませんでした。また、表面に出してまではありませんが、女性であるということで、あまり信用してもらえないということが感じられたりもしました。しかし、女性であるということは、変えられないことなので、少し開き直してみると、結構得ることがあるものです。例えば、一度会っただけで、名前を覚えてもらえるとか、現場先の地元の人たちが初対面でも安心してくれるとか、長期の現場になると、娘のようにかわいがってもらえるとか、ささやかなことかもしれませんが私にはうれしい

ことです。また、これからいろいろな職場に女性技術者が増えてくることで、お互いの理解も深まり、仕事を通じて信頼関係も得られていくのではないかと思います。

しかし、やはり女性であることが特に感じられるのが、コア箱のように重いものを運んだりするときで、力の差がはっきりとでます。そういう時は、仕方が無いことだと自分を納得させて他の人に手伝ってもらいます。きっと、私が今までこの仕事を続けてこれたのは、そういう時に“これだから女性は…”などと言わずに手伝ってくれる、理解ある人が多く周りに居てくれたからかもしれません。

さて、先のほうでも書いていますが、私は、今年で6年目になりますが、そろそろ結婚について、周りから心配されるようになりました。入社したときは、“結婚したら、どうせすぐ辞めるんだろう”などと言われてきたのですが、4年目頃から少し心配になってきたのか、“結婚できなくても会社や俺達は責任取れないぞ、大丈夫か？”と言われるようになってきました。心配してもらうのはとてもありがたいことだと思います。自分としては、たとえ結婚しても仕事を続けていきたいと思っていますが、この先どうなるかわからないし、や

はり両立させるには、自分だけの努力ではどうにもならないことがあります。まして、身近に前例がないことであり、結婚に対して躊躇することにもなり、結婚してもこのまま仕事を続けていけるのか、少し不安になることもあります。これからどうなるか、“まあ、何とかなるんじゃないかなあ”というところです。

昨年仙台で行われた技術フォーラムのパネルディスカッションに参加して、日頃出会うことのない女性技術者の方々と出会い、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。そして、みんな同じ事を考え、悩んでいることを知ることができました。その時、様々な問題に触れ話し合ったことは、これからの仕事の励みにもなります。さらに、もっと多くのことを話しあうためにこういう機会をどんどん増やして欲しいと思います。

最近、一つ疑問に思っていることは、これからの女性技術者は増えるのでしょうか？ということです。というのは、女性技術者を応援してくれる人がいる傍ら、やはり、女性技術者の採用には少ししぶる人がいるのも事実です。よく言われるのが、“山に連れて行くとトイレがね…”というのですが、そんな事で、女性技術者の採

用を決めないで欲しいです。これは一つの例であり、気を遣っていつてくれていることはよく分かりますが、こういう職種を最初から希望してくる人たちなのですから、そういう事は問題にならないのではないのでしょうか？

さて、「女性技術者のため息」とばかり

に、いろいろ書いてきましたが、この5年間で私が仕事以外で学んだことは、明るく、楽しく、元気に、常に前向きに進んでいけばなんとかなるんだということです。

みなさん、これからもよろしくお願いします。

